

研究報告

母性看護における学生の関心

— 学生の自由な発想による学習テーマの分析から —

Students' Interests in Maternal Nursing

—From an Analysis of Learning Themes Based on Students' Free Thinking—

三里久美子 ケニヨン充子 佐藤 美保 岸田 泰子
Kumiko Misato Michiko Kenyon Miho Sato Yasuko Kishida

キーワード：母性看護、学生の関心、テーマ学習

key words : maternity nursing, students' interest, theme learning

要 旨

目的：母性看護学実習において、学生が自由な発想で掲げた母性看護に関連するテーマに基づく学生の関心について明らかにする。

方法：3、4年次学生262名のテーマ学習レポートより、タイトル、学習された女性のライフステージ、おもな実習方法と実習場所を抽出し、量的および質的に分析した。

結果：学生は、母性看護において、【妊娠・出産・育児を支える看護活動と社会資源】、【親役割獲得を支える看護の視点】、【妊娠期から離乳期の母子の栄養】、【ハイリスクな母子および家族の看護】、【生殖に関連した現代に特有の産婦人科医療と看護】 および 【セクシュアリティに関連した教育とその実態】 に関心を示していた。学習された女性のライフステージは、成熟期が8割以上であった。

結論：女性のライフサイクル全般を捉え、リプロダクティブ・ヘルスの観点から学習できるよう更年期や老年期女性への学生の視点を広げる取り組みが必要であることが示唆された。

Abstract

Objective: This study aimed to clarify the students' interests based on themes related to maternal nursing that students have freely set up in maternity nursing practice.

Methods: Themes related to titles, the life stages of women studied, and main learning methods and learning locations were extracted from the learning reports submitted by 262 third-year and fourth-year students; they were then analysed quantitatively and qualitatively.

Result: In maternity nursing, students are involved in learning related to 'Nursing activities and social resources to support pregnancy, childbirth, and childcare', 'Nursing perspective to support parental role acquisition', 'Maternal and child nutrition from pregnancy to weaning', 'High-risk maternal, child, and family nursing', 'Modern obstetrics and gynaecology medical care and nursing related to reproduction', and 'Education related to sexuality and its reality'. More than 80% of the women studied were at the mature life stage.

Conclusion: The results suggested that efforts should be made to broaden the student's understanding of menopausal and elderly women so that they can learn from the perspective of reproductive health by grasping women's entire life cycle.

I はじめに

近年、女性とその家族を取り巻く地域・社会環境の変化、産科医療の発達、個人や家族の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、母性看護の対象が求める看護は個別化が進んでいる。そのため、母性看護を提供する者には、地域・社会環境および産科医療の変化に応じて、様々な対象を理解し、個々の価値観を尊重した援助を提供できる力が求められる。一方の母性看護の対象は、すべてのライフステージの女性、子どもとその家族であり、母性看護は、これらの対象のリプロダクティブ・ヘルスの水準を維持、増進し、健康障害の予防と回復を目的とする¹⁾。これらのことから、母性看護を提供する者は、胎児期から老年期までの幅広い対象の特徴を理解し、地域、社会や医療の変化等をタイムリーにとらえ、看護に取り入れる必要があり、看護基礎教育課程においては、その素地を備えた学生を育成する必要がある。

看護基礎教育課程における母性看護学実習では、ほぼすべての看護師養成校が妊産褥婦の受け持ち実習を行っている²⁾が、病院や診療所の産科以外に保育園や地域の子育て支援の場、助産所や家庭訪問等、実習場所を拡大し、様々な工夫を凝らして実習を展開している報告もある³⁾。このことから、各看護師養成学校は、社会の変化に応じた教育を提供し、その効果を高めるために、新たな視点を加えて母性看護学を教授できるよう実習方法、場所や内容を検討していると言える。

A大学においては、病院における妊産褥婦の受け持ち実習に加え、独自の実習の取り組みとして、2週間の母性看護学実習のうち1日を学生が自由な発想で掲げた母性看護に関連するテーマに沿い、施設見学、体験学習、調査や文献検討を通して、課題に取り組む学習（以下、テーマ学習）を取り入れている。テーマ学習を導入した理由は2点あり、1点目は、出生数の減少、出産施設数の減少や看護師養成校の増加等に伴い、6割以上の看護師養成校が実習施設確保の困難がある⁴⁾という、社会背景である。2点目は、学生たちが、狭義の母性看護の対象であるマタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥期および新生児期）のみならず、広義の母性看護の対象としての女性の生涯を通したりプロダクティブ・ヘルスを学ぶためである。

このような実習の現状や実習目標のもと、A大学では、2015年度、後期の母性看護実習からテーマ学習を導入した。その後、6年が経過し、2020年度、前期以降は、新型コロナウイルス感染症の流行により、臨床実習は全面あるいは一部中止となる制限を受けながら、現在に至っている。そこで、本研究では、実習制限の影響を考慮し、テーマ学習において、学生が自由な発想で掲げた母性看護に関連するテーマに基づく学生の関心、ライフステージ、実習方法および実習場所についての実態を明らかにし、母性看護学実習における独自の取り組みとして導入したテーマ学習の現状と課題を検討し、母性看護学実習をさらに発展させるための基礎資料を得ることとした。

II 目的

本研究の目的は、以下の2点である。

目的1：母性看護学実習において、学生が自由な発想で掲げた母性看護に関連するテーマに基づく学生の関心、ライフステージ、実習方法および実習場所についての実態を新型コロナウイルス流行の影響を考慮し、明らかにする。

目的2：テーマ学習の現状と課題を検討し、今後の母性看護学実習への取り組みについて示唆を得る。

III 方法

1 研究デザイン

量的研究および質的記述的研究デザインである。

2 研究対象者と選定方法

研究対象者は、2018年10月より2021年7月に、A大学で母性看護学実習を履修した3年次または4年次学生とした。母性看護学実習開始時のオリエンテーションにおいて、母性看護学領域の教員が、研究の趣旨、協力内容および研究へ協力しない場合も不利益はないことについて、履修学生へ文書と口頭で説明し、同意を得られた者を研究参加者として選定した。

3 データ収集期間

2018年10月～2021年7月である。

4 データ収集方法

母性看護学実習終了後に学生が提出したテーマ学習で学んだ内容を記載したレポート（以下、テーマ学習レポート）より、タイトル、学習された女性のライフステージ、おもな実習方法と実習場所を抽出した。学習された女性のライフステージは、複数の時期にまたがる場合にはすべての時期を抽出した。実習方法は、施設見学、調査または体験学習を行い、考察において文献検討を行っている場合は、施設見学、調査または体験学習を主となる実習方法として抽出した。実習場所は、学生が主となる実習方法により実習した場所を抽出した。

5 母性看護学実習におけるテーマ学習の概要

母性看護学実習は、2単位90時間を2週間で履修し、このうち1日をテーマ学習日として設けている。テーマ学習とは、「女性のライフサイクル全般において、その発達過程の特性を理解したうえで、リプロダクティブ・ヘルスの観点から課題を見出し、対象への看護の特徴と対象を尊重したケアの実践を学ぶ」ことを目標に⁵⁾、学生自身が自由な発想で母性看護学に関連したテーマを設定し、事前に学習計画（テーマ学習計画書）をたて、学びをレポートにまとめる学習である。さらに、個々の学生が学習した内容をカンファレンスにおいて発表し、学びを共有している。

実習場所としては、婦人科診療、不妊治療や出生前診断を行っている産婦人科診療所、妊婦健康診査や産褥入院を受け入れている助産所、病院のNICUにおける見学実習、教育機関である大学構内で行っている母子とパートナーを対象とする産前・産後クラス（以下、ペアレンツサロン）への参加体験の機会を希望する学生に対して提供している。学生は、このような機会を活用する場合もあれば、それぞれ興味のあるテーマに沿って、自宅、図書館や店舗等の実習施設以外での様々な場所で、また食事の調理体験、インタビュー、アンケートや市場調査、文献検討といった様々な方法により学習している。

6 分析方法

質的分析では、学生のレポートより抽出したタイトルをテーマととらえ、コードとした。コード

の類似性、相違性を考慮しながら、類似するコードを集めてサブカテゴリー、カテゴリーへと集約した。量的分析では、コードとして抽出したテーマ、学習された女性のライフステージおよびおもな実習方法と実習場所については、単純集計を行い、学生が関心をもったテーマおよび実習方法については経年的変化を分析した。分析作業は、母性看護学を専門とする教員4名で繰り返し行い、分析の信頼性の保持に努めた。

IV 倫理的配慮

本研究は、共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査委員会の承認（KWU-IRBA#18020）を得て行った。母性看護学領域の教員が、研究の趣旨、協力内容および研究へ協力しない場合も不利益はないことについて、履修学生へ文書と口頭で説明し、研究同意書への署名をもって、同意とみなした。実習担当教員による説明のため、研究協力への強制力が働かないよう、研究協力の有無は成績評価には影響しないことを十分に説明した。また、同意を得る際に、同意の撤回方法についても説明のうえ、撤回書を手渡し、途中辞退の自由を保障した。

V 結果

テーマ学習レポートより、タイトル、学習された女性のライフステージ、おもな実習方法と実習場所を抽出した結果、次のことが明らかになった。

1 学生の概要

研究への協力が得られた学生は、母性看護学実習を履修したすべての学生であり、A大学の3年次学生129名、4年次学生133名、計262名であった。A大学では、各領域実習を3年次後期から4年次前期に実施し、実習時期およびローテーションは、学生によって異なる。学生の実習年度・時期・年次別研究協力者数を表1に示す。2020年度以降の実習では、新型コロナウイルス感染症の流行により、学生が選択できる実習場所に次のような制限を受けた。2020年度、前期（4年次）の実習学生は、新型コロナウイルス感染症の流行により、病院や診療所の施設見学およびペアレンツサロンの参加体験は全面中止となった。

2020年度、後期(3年次)の実習学生以降は、病院や診療所の一部施設での見学実習は再開し、実習場所の制限は緩和したが、ペアレンツサロンの参加体験は引き続き中止であった。

2 おもな実習方法と実習場所

3年間のおもな実習方法と実習場所を表2に示し、実習方法の経年的変化を図1に示す。2020年度、前期(4年次)の実習学生は、施設見学は

表1 学生の実習年度・時期・年次別履修者数

実習年度・時期	実習年次	履修者数
2018・後期	3年次	46
2019・前期	4年次	34
2019・後期	3年次	38
2020・前期	4年次	44
2020・後期	3年次	45
2021・前期	4年次	55
合計		262

表2 実習方法および実習場所

n = 262

実習方法	n (%)	実習場所	n (%)
施設見学	56 (21.4)	病院 (NICU・産婦人科)	25 (9.5)
		診療所 (産婦人科)	11 (4.2)
		助産所	20 (7.6)
調査 (インタビュー・アンケート・市場)	27 (10.3)	病院 (産婦人科)	1 (0.4)
		保健センター	1 (0.4)
		小学校	1 (0.4)
		育児・マタニティ用品店舗	8 (3.1)
		自宅	16 (6.1)
		大学 (ペアレンツサロン)	28 (10.7)
体験学習	104 (39.7)	大学 (ペアレンツサロン)	28 (10.7)
		自宅	76 (29.0)
文献検討	75 (28.6)	図書館または自宅	75 (28.6)

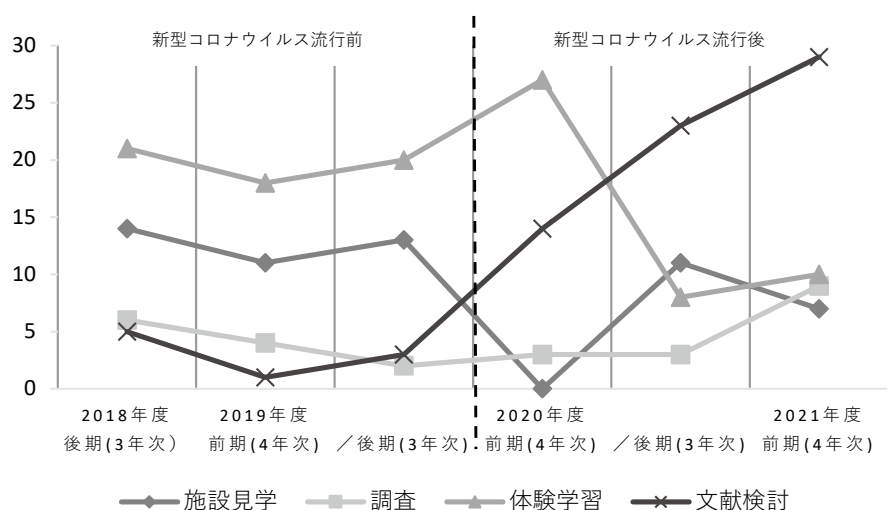


図1 実習方法の経年的変化

できず、自宅で可能な文献検討や妊娠期の食事等の調理を行う体験学習が前年より増加した。文献検討は、2020年、前期（4年次）の実習学生以降、増加傾向であった。

3 学習された女性のライフステージ

女性のライフステージ各期を胎児期、新生児期、小児期、思春期、成熟期、更年期および老年期の7つのステージに分類した結果、最も学習されたライフステージは、成熟期で8割以上を占め、更年期は2件と少なく、老年期は学習されて

いなかった（表3）。ライフステージが複数に及んでいたテーマは、35件であった。

4 学生が自由な発想で掲げた母性看護に関連するテーマ

テーマ学習レポートより抽出したタイトルをテーマととらえ、コードとし、類似するコードを集めて分類した結果、262のコードから23のサブカテゴリーおよび6のカテゴリーを抽出した（表4）。以下、サブカテゴリーは〈 〉、カテゴリーは【 】を用いて示す。

表3 学習されたライフステージ $n = 297$

ライフステージ	n (%)
胎児期	5 (1.7)
新生児期	27 (9.1)
小児期	5 (1.7)
思春期	13 (4.4)
成熟期	245 (82.5)
更年期	2 (0.7)
老年期	0 (0.0)
合計	297

重複回答

表4 母性看護に関連するテーマのカテゴリー・サブカテゴリー

No	カテゴリー	サブカテゴリー	コード数
I	妊娠・出産・育児を支える看護活動と社会資源	助産所助産師の活動と役割	21
		病院助産師の活動と役割	2
		教育機関で提供する母親と家族への支援	28
		育児を支える社会資源	12
II	親役割獲得を支える看護の視点	役割移行に関する支援	8
		周産期のメンタルヘルスの実態と支援	12
		勤労女性の妊娠・出産・育児	2
		マタニティ・育児用品の実態	11
III	妊娠期から離乳期の母子の栄養	妊娠期の栄養	76
		授乳期の栄養	2
		離乳期の栄養	4
IV	ハイリスクな母子および家族の看護	NICUにおける看護	34
		若年妊娠・出産の実態と看護	2
		妊娠合併症の予防と看護	5
		流産・死産を経験した母親の心理と看護	3
		虐待予防の支援	1
V	生殖に関連した現代に特有の産婦人科医療と看護	不妊治療と婦人科診療における看護	6
		出生前診断と医療職者の活動と役割	17
		無痛分娩に関する学び	2
		月経に対する意識と対処	3
VI	セクシュアリティに関連した教育とその実態	乳がん患者への看護	2
		性教育の実態と課題	7
		青年期学生のLGBTに対する認識	2

1) カテゴリーⅠ：【妊娠・出産・育児を支える看護活動と社会資源】

カテゴリーⅠは、63のコードから成り、〈助産所助産師の活動と役割〉、〈病院助産師の活動と役割〉、〈教育機関で提供する母親と家族への支援〉および〈育児を支える社会資源〉の4のサブカテゴリーで構成された。〈助産所助産師の活動と役割〉および〈病院助産師の活動と役割〉では、地域で活動する助産所助産師および医療機関で活動する病院助産師、双方の視点があつた。〈教育機関で提供する母親と家族への支援〉および〈育児を支える社会資源〉では、地域の教育機関や学生自身が居住する地域の妊娠期から育児期の家族への継続支援に関するテーマであつた。

2) カテゴリーⅡ：【親役割獲得を支える看護の視点】

カテゴリーⅡは、33のコードから成り、〈役割移行に関する支援〉、〈周産期のメンタルヘルスの実態と支援〉、〈勤労女性の妊娠・出産・育児〉および〈マタニティ・育児用品の実態〉の4のサブカテゴリーで構成された。〈役割移行に関する支援〉は、母親だけでなく父親やきょうだいの役割移行の視点も含まれていた。また、日本文化だけでなく異文化における役割移行の視点があつた。〈周産期のメンタルヘルスの実態と支援〉は、妊娠期または産褥期の不安、ストレス、産後うつに関する実態と支援、産後うつに対する予防的支援に関するテーマであつた。〈勤労女性の妊娠・出産・育児〉は、勤労女性の妊娠期、育児期をいかに支えるかという視点を持ち、〈マタニティ・育児用品の実態〉では、親または乳児、それぞれの立場からの視点を持ちながら、親役割獲得を支える看護について学ぶテーマであつた。

3) カテゴリーⅢ：【妊娠期から離乳期の母子の栄養】

カテゴリーⅢは、82のコードから成り、〈妊娠期の栄養〉、〈授乳期の栄養〉および〈離乳期の栄養〉の3のサブカテゴリーで構成された。〈妊娠期の栄養〉は、妊娠貧血、妊娠高血圧症候群などの疾患を予防するための献立の立案と調理、つわり時でも食べやすい献立の立案と調理等、実際に母性看護の対象の立場にたち調理を行うテーマであつた。〈授乳期の栄養〉は、母乳育児を行う母親の栄養に関するテーマであつた。〈離乳期の栄

養〉は、実際に調理する母親と離乳食を食する子どもの双方の視点から、調理の手間や安全性等についてのテーマであつた。

4) カテゴリーⅣ：【ハイリスクな母子および家族の看護】

カテゴリーⅣは、45のコードから成り、〈NICUにおける看護〉、〈若年妊娠・出産の実態と看護〉、〈妊娠合併症の予防と看護〉、〈流産・死産を経験した母親の心理と看護〉および〈虐待予防の支援〉の5のサブカテゴリーで構成された。〈NICUにおける看護〉は、ファミリーセンタードケアやディベロップメンタルケアの実際および看護の役割について、その他のサブカテゴリーについては、身体的、社会的ハイリスクな状況にありながら、妊娠や育児を継続する、あるいは死産により喪失体験を伴う母親への看護についてのテーマであつた。

5) カテゴリーⅤ：【生殖に関連した現代に特有の産婦人科医療と看護】

カテゴリーⅤは、30のコードから成り、〈不妊治療と婦人科診療における看護〉、〈出生前診断と医療職者の活動と役割〉、〈無痛分娩に関する学び〉、〈月経に対する意識と対処〉および〈乳がん患者への看護〉の5のサブカテゴリーで構成された。〈不妊治療と婦人科診療における看護〉および〈出生前診断と医療職者の活動と役割〉は、不妊治療や出生前診断という生殖医療の現場における医師、看護師、助産師や臨床心理士による活動や役割に関するテーマであつた。〈無痛分娩に関する学び〉は、レポート内容から、無痛分娩の実態や分娩方法選択の意思決定支援等について学習されていた。〈月経に対する意識と対処〉は、増加する月経困難症や月経痛などの月経随伴症状に対する意識や対処について学習されていた。〈乳がん患者への看護〉は、近年増加傾向にある乳がん患者のボディイメージの変化に対する看護について学習されていた。乳腺は生殖器のひとつとして分類される場合があることから、本カテゴリーへ分類した。

6) カテゴリーⅥ【セクシュアリティに関連した教育とその実態】

カテゴリーⅥは、9のコードから成り、〈性教育の実態と課題〉および〈青年期学生のLGBTに対する認識〉の2のサブカテゴリーで構成され

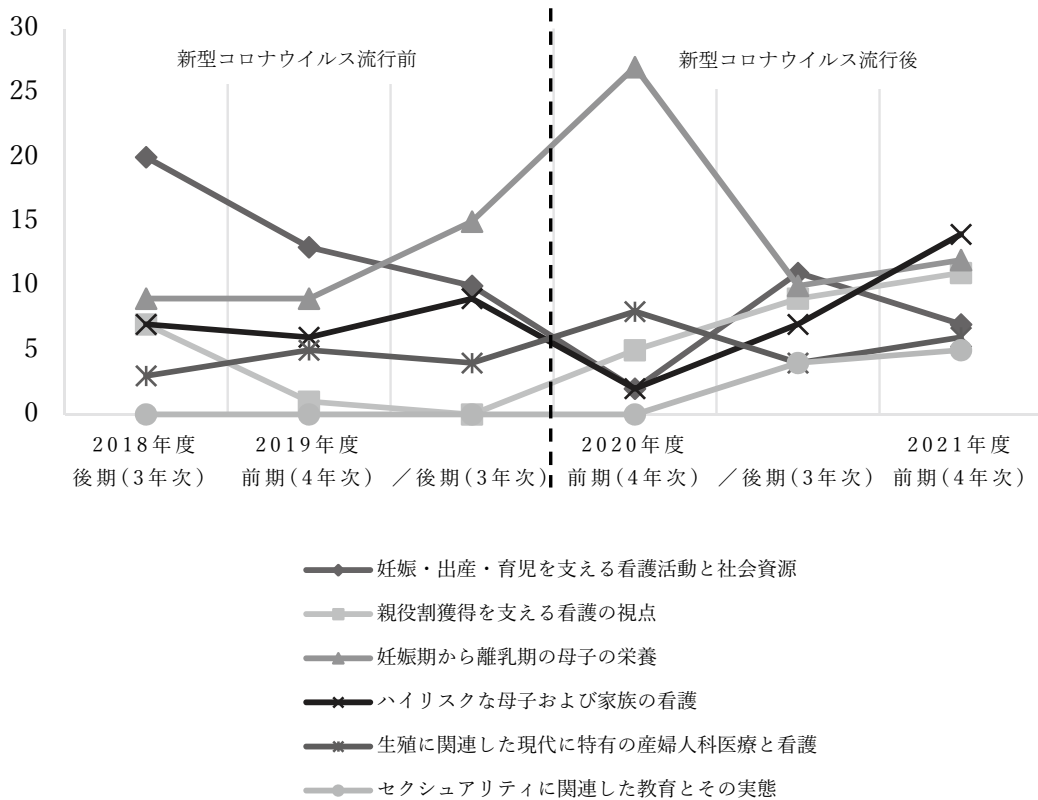


図2 テーマの経年的変化

た。〈性教育の実態と課題〉では、6件は思春期の性教育について学習されていたが、1件のみ発達障害児への性教育について学習されていた。〈青年期学生のLGBTに対する認識〉については、セクシャルマイノリティに対する認識や実態等に関するテーマであった。

5 学生が自由な発想で掲げた母性看護に関連するテーマの経年的変化

2020年度、前期(4年次)の学生では、一時的に、【妊娠・出産・育児を支える看護活動と社会資源】が増加し、【妊娠から離乳期の母子の栄養】が減少した。また、2020年度、後期(3年次)以降に、【セクシュアリティに関連した教育とその実態】のテーマが新たに出現した(図2)。

VI 考察

得られた結果より、母性看護学実習のテーマ学習における学生の関心と学習の現状、新型コロナウイルス流行の影響を考慮したテーマ学習の動向、および今後の母性看護学実習への取り組みについて考察する。

1 母性看護学実習のテーマ学習における学生の関心と学習の現状

母性看護を学ぶ学生たちの多くは、妊娠・出産・育児と関連のある、女性のライフステージでは成熟期にあたる、カテゴリーIからIVに示したテーマに関心をもっていることが明らかとなった。母性看護が提供される場には、病院や診療所の医療機関のほかに、保健所、市町村保健センター、母子健康センター、助産所等の諸機関がある¹⁾。【妊娠・出産・育児を支える看護活動と社会資源】に関して学んだ学生たちは、おもな出産施設である医療機関における看護への関心だけでなく、地域で妊娠・出産・育児を支える助産所や教育機関における助産師の活動や役割への関心をもち、出産施設と地域における両方の視点で学習に取り組むことができたと言える。

【親役割獲得を支える看護の視点】、【妊娠から離乳期の母子の栄養】および【ハイリスクな母子および家族の看護】に関して学んだ学生たちは、看護職者への関心だけではなく、勤労女性、流産・死産を経験した母親、離乳食をつくる母親や食す乳児、育児用品を実際に使用する新生児

等、対象者に向けた関心が示されていた。また、近年では、産後うつや妊産褥婦の自殺の増加⁶⁾、児童虐待相談件数の増加を認め⁷⁾、これらに対する早期発見や予防的関わりが課題となっている。〈周産期のメンタルヘルスの実態と支援〉、〈虐待予防の支援〉および〈若年妊娠・出産の実態と看護〉に関心をもち学習テーマとしている点は、母性看護に関連する時代に即した社会的諸課題を的確にとらえ、自らの学習課題を見出すことができていたと考える。

【生殖に関連した現代に特有の産婦人科医療と看護】については、不妊治療や出生前診断を中心に学生の関心が示されていた。2019年には、14人に1人が不妊治療のひとつである体外受精により生を受けており⁸⁾、治療の需要が高まるとともに、治療施設の地域偏在や経済的負担の大きさ、高齢になってからの不妊治療の開始等が課題となっている⁹⁾。また、出生前診断に対する妊婦の関心は、出産年齢の高齢化を背景に、年々高まり、医療職者には、十分な意思決定支援が求められている¹⁰⁾。このように不妊治療と出生前診断に関しては、現代の産婦人科医療において妊婦の需要が高まる中、依然として課題が残っている現状である。学生は、このようなテーマに関心をもちたことから、現代に特有の課題へ着目していたと考えられる。

【セクシュアリティに関連した教育とその実態】は、2020年度、後期（3年次）以降に新たに学習され始めたテーマである。先行研究では、将来、医療職者として働く看護学生には、LGBTについて正しい知識をもち、多様な性のあり方への関心を高める必要性が示唆されている¹¹⁾。A大学の学生たちは、2年次に、母性看護を实践するうえで必要な基礎知識を学ぶ母性看護学概論において、人間の性と生殖をめぐる諸問題に関する看護の役割について学習している。【セクシュアリティに関連した教育とその実態】に関心をもちた学生は少数ではあるが、性教育やLGBTに関するテーマも母性看護の範疇として考え、リプロダクティブ・ヘルスの概念をもとにテーマ学習へ発展させ、母性看護の学習が積み重ねられていたことが示唆される。

以上のことより、母性看護学実習のテーマ学習において、学生は、様々な場で展開される母性看

護について、看護や教育の実態および現代に特有の社会的諸課題への幅広い関心をもち、看護の役割を考察していた。

2 新型コロナウイルス流行の影響を考慮した テーマ学習の動向

2020年6月、厚生労働省から「医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等実習施設の確保が困難である場合の措置」について通達され¹²⁾、新型コロナウイルス感染症流行下で、多くの看護師養成学校の学生は、臨床実習を実施できない時期を経てきた可能性がある。2020年度、前期（4年次）の実習学生は、実習方法および学生が関心をもちたテーマについて、変化がみられた。前年度までの経年変化と比較し、体験学習と文献検討による実習方法が増加し、【妊娠期から離乳期の母子の栄養】に関するテーマが増加した。この理由は、A大学の学生も、臨床実習の全面中止という制約により、実習場所を図書館や自宅に変更し、実施可能なテーマに変更する等の影響を受けたことが最も考えられる。しかし、2020年度、後期（3年次）の制約が緩和されて以降の学生が関心をもちたテーマは、大きな偏りはみられなかったことから、テーマ選択への影響は、2020年度、前期（4年次）の実習学生において、一時的なものであったと考えられる。

また、2020年度、前期（4年次）以降、文献学習が年々増加していることから、病院、診療所や助産所の施設見学やペアレンツサロンでの体験学習の一部制限により、学生は、実習方法の変更を強いられた可能性がある。しかし、テーマに関しては、大きな変動はみられなかったことから、施設見学から文献学習へ変更する等、実習方法を変更することにより、関心をもちたテーマを選択していたと考えられる。

以上のことより、学生は、3年間のテーマ学習の計画、遂行において、新型コロナウイルス流行によりテーマの選択に一時的な影響を受けたが、実習方法を変更することで、母性看護において、各自が関心をもちたテーマを選択し、学習を進めていたと考えられる。

3 母性看護学実習への今後の取り組みへの示唆 学生が学習した女性のライフステージは、成熟

期が8割以上と群を抜いて多く、更年期は2件と少なく、老年期について学習した学生はいなかった。母性看護学実習のうち、テーマ学習以外では、妊産褥婦と新生児の受け持ち実習を行っていることから、8割以上の学生の学びは成熟期、胎児期および新生児期のライフステージにおける学習に限られていることになる。母性看護学実習の主なる対象は周産期にある成熟期女性であるが、女性のライフサイクル全般において、その発達過程の特性を理解したうえで、リプロダクティブ・ヘルスの観点から課題を見出すというテーマ学習の目標を考えると、学生が関心をもって学習できるライフステージを拡大する取り組みが必要である。

他領域の看護において、更年期や老年期のライフステージにある女性について学習する機会はあるが、疾患や障害をもつ人々に対する対象理解や看護援助が中心であり、リプロダクティブ・ヘルスの観点から女性の健康を考えることは、母性看護特有の観点である。更年期や老年期女性の卵巣機能やエストロゲン低下に伴う心身の症状や不定愁訴等、疾患ではない、ライフステージ特有の心身の変化や¹⁾、老年期女性の性に対する心身の変化を理解し、セルフケア能力を高められる看護援助は、リプロダクティブ・ヘルスの水準を維持・増進し、母性に関する健康障害の予防と回復を目的とする母性看護の役割に値する。

以上のことより、学生はテーマ学習を通して、リプロダクティブ・ヘルスの観点から幅広い視点でテーマを選択しているが、更年期および老年期女性を学習する機会是非常に限られている現状が明らかとなった。このことは、母性看護学実習の実態に関する報告書⁴⁾の一部と同様の結果であった。本報告書では、更年期障害の看護を目標に掲げている看護師養成校の割合が約8%であり、女性のライフサイクルの視点を強調し、更年期を学ぶ実習施設の拡大について提案されている。A大学においても、学生が、女性のライフサイクル全般を捉え、リプロダクティブ・ヘルスの観点から学習できるよう更年期や老年期女性への視点を広げる取り組みが必要であることが示唆された。具体的には、女性外来、更年期専門外来等の見学実習の機会を設ける等の工夫が考えられる。

4 本研究の限界と今後の課題

本研究では、学生がテーマ学習で作成したレポートのタイトルから母性看護学実習のテーマ学習における学生の関心を明らかにすることにとどまり、学生が個々のテーマから実際に得た学びの詳細については分析していない。そのため、今後はテーマ学習レポートの内容から学生の学びを分析し、学習効果を明らかにしたうえで、母性看護学実習の取り組みについて検討していく必要がある。

Ⅶ 結 論

テーマ学習レポートより、タイトル、学習された女性のライフステージ、おもな実習方法と実習場所を分析した結果、次のことが明らかとなった。

- 1 学生は、【妊娠・出産・育児を支える看護活動と社会資源】、【親役割獲得を支える看護の視点】、【妊娠期から離乳期の母子の栄養】、【ハイリスクな母子および家族の看護】、【生殖に関連した現代に特有の産婦人科医療と看護】 および 【セクシュアリティに関連した教育とその実態】 に関心をもち、母性看護学実習のテーマ学習に取り組んでいた。
- 2 学生は、様々な場で展開される母性看護について、看護や教育の実態および現代に特有の社会的諸課題への幅広い関心をもち、看護の役割を考察していた。
- 3 学生は、テーマ学習の計画、遂行において、新型コロナウイルス流行により、テーマの選択に一時的な影響を受けたが、実習方法を変更することで、母性看護において、各自が関心をもったテーマを選択し、学習を進めていた。
- 4 母性看護学実習におけるテーマ学習で学習された女性のライフステージは、成熟期が8割以上であり、女性のライフサイクル全般を捉え、リプロダクティブ・ヘルスの観点から学習できるよう、更年期や老年期女性への学生の視点を広げる取り組みが必要であることが示唆された。

謝 辞

本研究に協力してくださいました、A大学学生の皆様へ心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 高橋真理, 工藤美子: 第5章女性のライフステージ各期における看護, 森恵美編, 系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学1, 医学書院, 東京, 180-247, 2019.
- 2) 宍戸路佳, 大森智美, 久保恭子, 他: 看護師養成課程における母性看護学実習の実態, 埼玉医科大学看護学科紀要, 5 (1), 47-53, 2012.
- 3) 岸田泰子, 藤井智恵美, 和田佳子: 母性看護学実習の展開に関する一考察, 共立女子大学看護学雑誌, 2, 39-46, 2015.
- 4) 日本看護学校協議会: 「小児・母性看護学実習に関する実態調査」報告書. http://www.nihonkan-go.org/pdf/act_28th_koukan_5.pdf (2021/10/16 検索)
- 5) 共立女子大学看護学部看護学科編: 2020-2021年度母性看護学実習臨地実習要項, 2020.
- 6) 国立研究開発法人国立成育医療研究センター: 人口動態統計(死亡・出生・死産)から見る妊娠中・産後の死亡の現状. <https://www.ncchd.go.jp/press/2018/maternal-deaths.html> (2021/10/27 検索)
- 7) 厚生労働省: 令和2年度児童相談所での児童虐待相談対応件数(速報値). <https://www.mhlw.go.jp/content/000824359.pdf> (2021/10/27 検索)
- 8) 読売新聞オンライン: 体外受精で生まれた子、14人に1人…19年は過去最多6万598人が誕生. <https://www.yomiuri.co.jp/medical/20210914-OYT1T50152/> (2021/10/16 検索)
- 9) 跡上富美: 新体系看護学全書母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護, 新道幸恵編, メヂカルフレンド社, 東京, 273-315, 2013.
- 10) NHKスペシャル取材班/野村優夫: 出生前診断、受けますか? 納得のいく「決断」のためにできること, 講談社, 東京, 2017.
- 11) 吉澤真歩, 近藤浩子, 井田伸人: LGBTに対する看護系大学生の理解に関する調査, The KITA-KANTO Medical Journal, 71, 37-46, 2021.
- 12) 厚生労働省: 新型コロナウイルス感染症への対応のため、医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等における実習等の授業の弾力的な取扱いの具体的な取組事例や個々の学生等の状況に応じた学修機会の確保等について. <https://www.mhlw.go.jp/content/000636112.pdf> (2021/10/16 検索)